

ふるさとの 其の25 誇り



松聲堂社



仮学会の置かれた宝珠院



松聲堂の学習風景

西野松聲堂 教育への熱い情熱

けることによりその利子によって運営がされることになりました。

最初は、西野の宝珠院を仮学会として始まり、天保10年（1839）に碑のある場所へ校舎を新築して「松聲堂」と命名します。学則なども整備され、近隣の村々のほか遠くは金無川以東より学びに来る者もいました。

教師には、江戸三味線堀生まれの松井煥齋かんさいを迎え、漢学を中心に、習字、平仮名、数字等を教えたといえます。創設後、数年たつと経営が苦しくなり、松井は自分の経費を節約して学校を守り危機を乗り切ったといえます。

松井は13年間指導し、その後を継いだのが、江戸で文武の道を修めた宮浦東谷みやうらです。宮浦は塾生と寝起きや飲食を共にして指導した他、村人のために講演会等を開き村人の教導にもつとめました。

明治時代になると、山梨県の許可を得て西野郷学校と改称し、続いて西野尋常小学校となります。昭和44年には、在家塚小学校と統合して白根東小学校となり現在まで続いています。

農民が主体となって代官所に手習所創設を願った例は、県内には他になく、この地域の人々の教育に対する情熱を感じることができます。

白根地区西野の集会所松聲堂しょうせいどうの南側

に「松聲堂社」という石碑が建っています。ここが、西郡の学校発祥の地です。道から少し離れたところにあるため、目立たない碑ですが、子供たちの教育を大切なものと考えた先人たちの思いが伝わってきます。

江戸時代、庶民が学ぶ場として寺子屋や私塾といったものがありません。これらは、一般の僧侶や神官、医師らによって開業され、読み書き等を中心とした初等教育機関のようなものでした。

それとは別に、代官所の許可を得て作られたのが手習所や教諭所と呼ばれるところでした。天保6年（1835）、西野村長百姓幸蔵、佐次兵衛らが協力して手習所創設を市川代官所へ出願しました。手習所実現のために、村中の百姓の連印帳を添えています。

一年後、代官所の許可が下り、手習所永続のため基金が西野村、百々村、西花輪村、荊沢村等から総額140両と米4俵が集まり、希望者に貸し付けられた。